

生徒の英語学習への意欲を高める工夫をしましょう

生徒の英語力の向上を図るには、生徒の英語学習への意欲を高めることが大切です。教師は、生徒にとって「分かる授業」を行い、「分かった」「できた」という喜びを実感させ、生徒が英語学習に前向きに取り組めるようにしましょう。

1 「分かる授業」を展開しましょう

先生方は、日頃から、生徒にとって分かりやすい授業を行おうと努力されていると思います。しかし、英語の授業が「よく分かる」あるいは「だいたい分かる」と思っている本県生徒の割合は、約4割（平成16年度教育課程実施状況調査より）となっています。



英語の授業は
分かるわ。

約4割の生徒の回答

これから、生徒にとって「分かる授業」を展開するためのポイントを、二つ示しますので、ぜひ参考にしてください。

授業の始めに「本時のねらい」をはっきり示しましょう

このことは、栃木県学力向上委員会からも提言されています。授業のねらいを分かりやすく示すことによって、生徒はその授業を通してどのような力を身に付けられるか理解でき、目的意識をもって授業に臨むことができます。

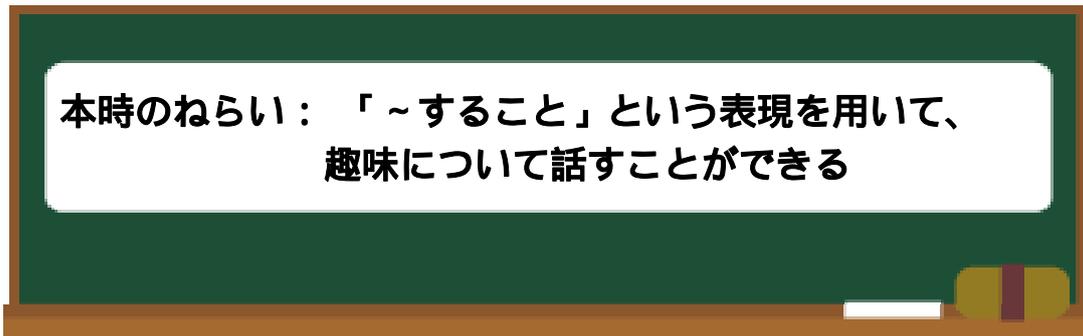
それでは、生徒にとって分かりやすい「本時のねらい」とは、どのようなものか、2年生の動名詞を扱う授業について考えてみましょう。例えば、次のようなねらいはどうでしょうか。

本時のねらい： 動名詞の使い方

本時のねらい： ~ing（~すること）の使い方

まず、「動名詞」と言われても、生徒はどのような表現形式なのか見当もつかないのではないのでしょうか。また、いずれのねらいも、授業を通してどのような力が身に

付くのが明確ではないので、生徒にとっては分かりにくいものとなっています。そこで、次のようなねらいにしてみてもいいでしょうか。



このようなねらいにすれば、今日の授業で何が身に付くのがはっきりします。生徒は、どんなことができるようになるのかが分かり、学習意欲も高まることが期待できます。ここで大切なのは、教師側の視点からのねらいではなく、教師と生徒が共有できるねらいとするということです。



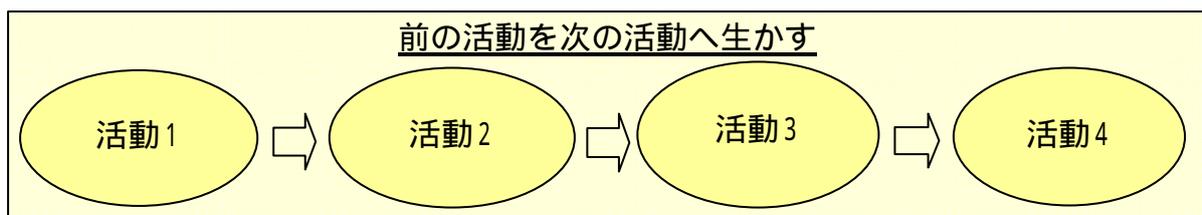
今日の授業をがんばれば、自分の趣味を英語で言えるようになるんだ。
よし、やるぞ!

授業で行う各活動の有機的な関連を図りましょう

授業は、その時間のねらいを達成することを目指して行われます。そこで教師は、そのねらいを達成するために、どのような流れで授業を行ったらいいか、また、どのような活動を設定すると効果的かなどを考え、準備し、授業に臨みます。

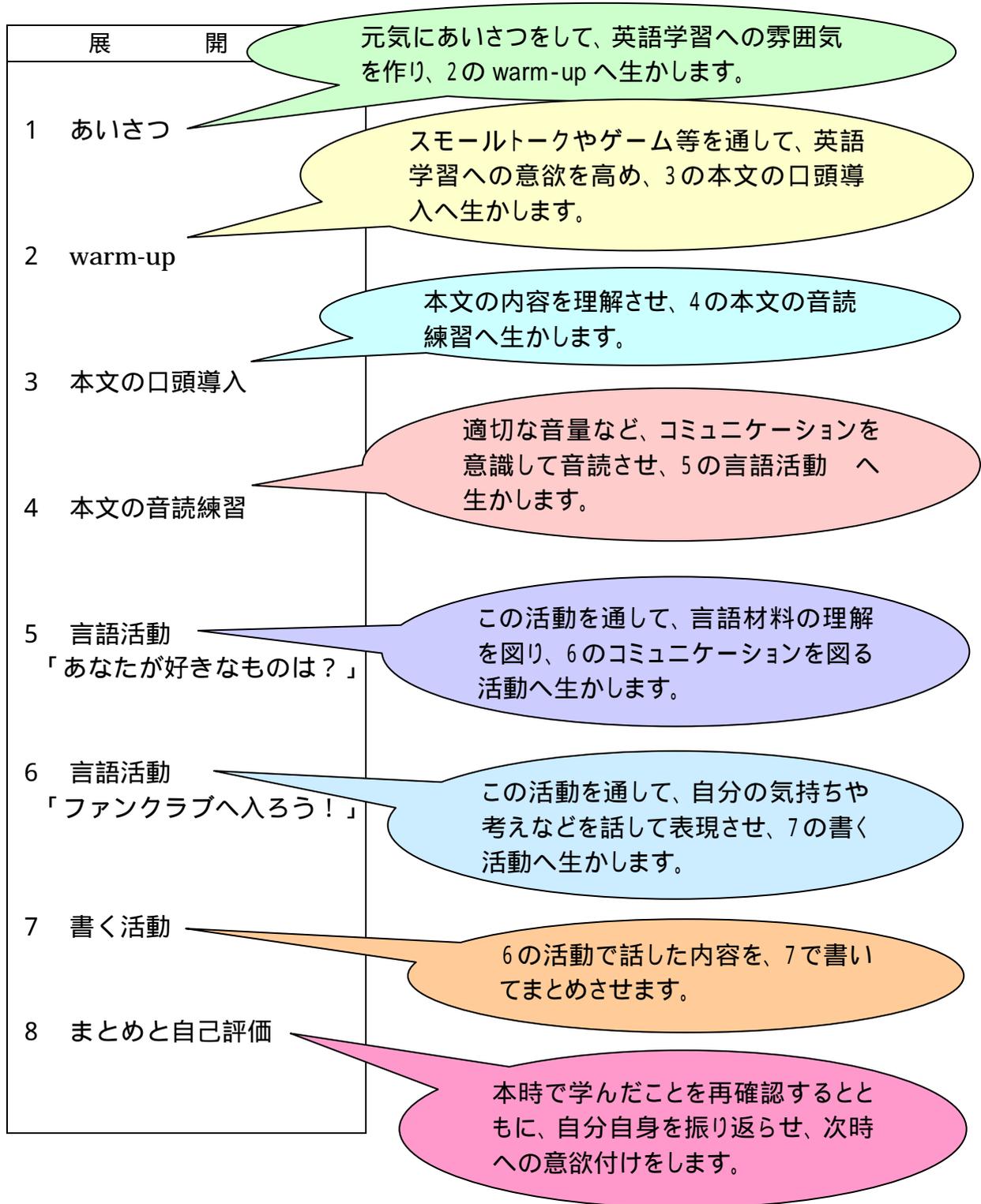
その際、教師が常に意識しておかなければならないことは、それぞれの活動を有機的に関連させて行うということです。有機的に関連させるとは、活動を次の活動に生かすということです。そうすることで、生徒の意欲の高まりや理解の深まりを促すことができ、生徒にとって「分かる授業」となります。

有機的な関連とは？



生徒の関心・意欲・態度の高揚や理解の深まりを促し、授業のねらいを達成する

次に示したのは、ある授業の学習指導案の展開部分と、各活動を関連させる際の留意点です。この授業で扱う文法事項は、「一般動詞の疑問文」であり、次のような関連を意識して指導することで、生徒にとって「分かる授業」となっていきます。



* 「言語活動」、「言語活動」及び「書く活動」の具体的な活動例は、「栃木の子どもたちの学力向上を図る授業改善プラン」(平成17年5月) 同(平成17年9月)をご参照ください。